

| | | | | | | | | | |
|--|----------------------------------|--------------------------------|---------------------------|--------------------------------|----------------------------|-----|------------|-----|------|
| 科目名 | デザイン実習 5 | | | | | | | 年度 | 2026 |
| 英語科目名 | Design Course 5 | | | | | | | 学期 | 後期 |
| 学科・学年 | デザイン科 インテリアデザイン専攻 3年次 | 必/選 | 必 | 時間数 | 60 | 単位数 | 2 | 種別※ | 実習 |
| 担当教員 | 長沼みか | 教員の実務経験 | | 有 | 実務経験の職種 | | インテリアデザイナー | | |
| 【科目の目的】 この科目では、卒業制作のフォローとしての授業である。卒業制作は、あくまで社会のニーズにもとづくもの、あるいは社会の問題・課題を改善するものを、調査・考察し、具体的な企画案を提案し、企画にもとづくツールやモックを制作し、広く一般に向けてプレゼンテーションすることを目的とする。 | | | | | | | | | |
| 【科目の概要】 実践的な課題制作を行います。 | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 クライアントの要望を受け、インテリアデザインの目的についての確に理解すること、効果的な手段について考察しリサーチを行うこと、考察したことをビジュアル化し教員に提案し検証すること、完成したデザインをわかりやすく説明することを目標としている。 | | | | | | | | | |
| 【授業の注意点】 クラス＝デザイン制作室という認識をもってより良いデザイン制作に必要な学生間・教員と学生のコミュニケーションと制作プロセスを重視する。制作にあたってはデザイナーとして各自で授業の事前準備と事後のフォローを前提とした受講マナーで授業に参加することを求める（詳しくは、最初の授業で説明）。授業時数の4分の3以上出席しない者は課題提出とプレゼンテーションの実施ならびに評価を受けることができない。 | | | | | | | | | |
| 評価基準＝ルーブリック | | | | | | | | | |
| ルーブリック 評価 | レベル5 優れている | レベル4 よい | レベル3 ふつう | レベル2 あと少し | レベル1 要努力 | | | | |
| 到達目標 A | 要望に応える制作技術を理解し、十分に活用して丁寧に制作している | 要望に応える制作技術を理解し、丁寧に制作している | 要望に応える制作技術を理解し、制作している | 要望に応える制作技術を理解しているが、形として不十分 | 要望に応える制作技術の理解が不足している | | | | |
| 到達目標 B | 課題条件に合わせ、論理的思考に沿った効果的な表現ができる | 課題条件に合わせ、論理的思考に沿った表現ができる | 課題条件に合わせた思考と表現ができる | 課題条件に合わせた思考はしているが表現が不十分 | 課題条件の理解が不足し、思考と表現が不十分 | | | | |
| 到達目標 C | 多くのアイデアをもとに、リサーチや内容の検証、修正ができる | アイデアをもとに、リサーチやデザイン内容の検証、修正ができる | アイデアをもとに、デザイン内容の検証、修正ができる | アイデアをもとに制作はできるが、デザイン内容の修正が不十分 | アイデア、デザイン内容の検証、修正が不十分 | | | | |
| 到達目標 D | 制作時間を考えて内容を工夫し、スケジュール管理と課題提出ができる | 制作時間と提出期日を考えてスケジュール管理と課題提出ができる | 提出期日を考えて締め切りに合わせて課題提出ができる | 提出期日を考えて締め切りに合わせて課題提出ができない時がある | 提出期日を考えて締め切りに合わせて課題提出ができない | | | | |
| 到達目標 E | 主体的に授業参加し、自分の作品を言語化して丁寧に説明できる | 休まず授業参加し、自分の作品を言語化して説明することができる | 自分の作品を言語化して説明することができる | 自分の作品を言語化して説明することができない時がある | 自分の作品を言語化して説明することができない | | | | |
| 【教科書】 参考作品・参考資料等は、授業中に配布、掲示する。 | | | | | | | | | |
| 【参考資料】 | | | | | | | | | |
| 【成績の評価方法・評価基準】 課題完成度50% 提出課題完成度を総合的に評価する。 リサーチ20% 制作準備と過程を評価する。 相談検証20% 制作過程で適切なディレクション受答ができたか評価する。 プレゼン10% 制作物の発表方法、内容について評価する。 | | | | | | | | | |
| ※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。 | | | | | | | | | |

| 科目名 | | デザイン実習 5 | | | 年度 | 2026 |
|------|----------------------|-----------------|-------------|--------------------------------|-----------------------|------|
| 英語表記 | | Design Course 5 | | | 学期 | 後期 |
| 回数 | 授業テーマ | 各授業の目的 | 授業内容 | 到達目標=修得するスキル | 評価方法 | 自己評価 |
| 1 | ガイダンス及び各自テーマ発表 | 授業について理解する | 1 授業の流れの確認 | 目標を立てることができる | 2 | |
| 2 | ラフデザイン | テーマ設定、エスキース① | 1 情報収集 | テーマに関する情報を収集できる | 2 | |
| | | | 2 デザインスケッチ | アイデアスケッチができる | | |
| 3 | ラフデザイン | テーマ設定、エスキース② | 1 情報収集 | テーマに関する情報を収集できる | 2 | |
| | | | 2 デザインワーク | アイデアスケッチができる | | |
| 4 | ラフデザイン | エスキース、図面作成① | 1 情報収集 | テーマに関する情報を収集できる | 2 | |
| | | | 2 デザインワーク | アイデアスケッチができる | | |
| 5 | 中間プレゼンテーション準備 | エスキース、図面作成② | 1 作図 | アイデアをもとに図面を作成することができる | 2 | |
| 6 | 中間プレゼンテーション | エスキース、プレゼンボード作成 | 1 ビジュアル作成 | アイデアをもとにCGやパースを作成することができる | 2 | |
| | | | 2 プレゼンボード作成 | 作成したビジュアルを使いプレゼンボードを作成することができる | | |
| 7 | 中間プレゼンテーションフィードバック検討 | プレゼンテーション | 1 プレゼンテーション | 自分の作品を説明できる | 2 | |
| | | | 2 提出 | 期限内に提出する | | |
| 8 | 最終提案デザインまとめ | テーマ設定、エスキース① | 1 情報収集 | テーマに関する情報を収集できる | 2 | |
| | | | 2 デザインスケッチ | アイデアスケッチができる | | |
| 9 | 最終提案デザインまとめ | テーマ設定、エスキース② | 1 情報収集 | テーマに関する情報を収集できる | 2 | |
| | | | 2 デザインワーク | アイデアスケッチができる | | |
| 10 | 最終提案デザインまとめ | エスキース、図面作成① | 1 模型製作 | アイデアをもとに模型を作成することができる | 2 | |
| 11 | 最終提案デザインまとめ | エスキース、図面作成② | 1 模型製作 | アイデアをもとに模型を作成することができる | 2 | |
| 12 | 最終成果物の制作 | エスキース、模型作成③ | 1 模型製作 | アイデアをもとに模型を作成することができる | 2 | |
| 13 | 最終成果物の制作 | プレゼン資料作成① | 1 | 模型製作 | アイデアをもとに模型を作成することができる | 2 |
| | | | 2 | | | |
| 14 | 最終成果物の制作 | プレゼン資料作成② | 1 ビジュアル作成 | アイデアをもとにCGやパースを作成することができる | 2 | |
| | | | 2 プレゼンボード作成 | 作成したビジュアルを使いプレゼンボードを作成することができる | | |
| 15 | 最終プレゼンテーション準備 | プレゼンテーション | 1 プレゼンテーション | 自分の作品を説明できる | 2 | |
| | | | 2 提出 | 期限内に提出する | | |

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった
備考 等